第30回2027年２月アナンダインド旅行通信（１）

日程：２月20日(土)～３月３日（水）１２日間
費用：￥396,000
内訳：航空券、エアーインディア使用羽田～デリー往復（燃油サーチャージ、空港税など込み）ホテル宿泊朝食、昼食込み、インド国内タクシー、バスでの移動費、講習用染料、各村での使用布３種類、絞り用布全て込み。
自由行動での食事代、夕食代は各自お支払い下さい。（１日¥500～¥1,000）
定員：１４名　定員になり次第締め切らせていただきます。お早めにお申し込み下さい。

全ての資料とアナンダインド旅行の特徴と狙いをよくお読みいただき、参加希望の方は申込用紙にご記入の上アナンダまでお申込みください。航空券の手配はグループで予約しています。みなさんの参加お待ちしています。

通信１の内容

１）アナンダインド旅行通信（1）	２枚
２）インド旅行参加申込用紙	１枚
３）旅行日程表	１枚
４）アナンダのインド旅行の特徴とねらい	２枚
合計	**６枚（頁）**

＊今回の旅行費用について

航空券は羽田発、エアーインディア利用デリー～羽田直行便です。詳細は日程表に記しています。

ホテルはジャイプールアーリヤニワス（Arya Niwas Hotel）を利用、朝食付です。ワークショップや移動時の昼食も費用に含まれます。

デリー往復のバス代や滞在中の移動に使うタクシーやバスも滞在費用に含まれています。各自お支払いいただくのは夕食（ホテル内レストラン￥500～¥1,000）と自由行動での昼食代です。

講習時に使用する布３種類（テーブルクロス、服、ショール、それぞれに向く布を用意）も費用に含まれています。一枚 2～3m 使用できます。その他に自分の手持ちの布も量に限りがありますが持っていくことが出来ます。ご相談ください。

＊旅行のキャンセル料について

１月１９日(火)までに旅行をキャンセルする場合、旅行費用の全額返金致します。
１月１９日(火)以降、出発前日までのキャンセルは旅費の**半額**お支払いいただきます。（航空券発券済みのため）宜しくお願いします。**出発前日、当日キャンセルの場合全額返金できません**ので、予めご了承下さい。

＊インド滞在ビザについて

インド旅行には滞在ビザが必要です。ビザ申請を希望の方は航空券をお願いしている旅行会社で取得することができます。その際ビザ申請代行手数料が別途かかります。一年ビザで￥10,000 です。ビザを取得するには**パスポートの有効期限半年以上**必要です。**必ずパスポートをご確認下さい。**
もしパスポートをお持ちでない方、半年期限が切れている場合はできるだけ早く申請取得お願いします。
ご自分でビザを申請される方は取得後お手数ですがアナンダまでコピーを送付ください。宜しくお願いいたします。

＊自分のデザインした木版を作ってもらいたい方へ

ご自分のデザイン画をインドに送って木版を作ってもらえます。ご希望の方はアナンダまでデザイン画を送って下さい。木版職人は精度高く、どんなデザインでもその通り作ってくれますが、中にはこちらで判断して書き直しをお願いすることもあります。ご了承ください。作ってもらいたい方は 12 月中にできるだけ早くお問い合わせください。
大きさやデザインの細かさなどで値段が違いますが￥1,000～￥5,000 ぐらいです。出来上がった木版でオリジナルのプリント布を現地で作ることができます。

旅行についての注意事項や気候、持ち物のことについては、お申し込みいただいた後の通信(2)でお知らせします。
質問などありましたらいつでもご連絡下さい。

（株）アナンダ　西岡ゆう子

2027 年２月アナンダインド旅行参加申込用紙

今回のインド旅行参加ご希望の方は **12 月 18 日（金）**までに、この参加申し込み用紙に各項目記入の上、メール、ファックス（0551-32-4830）郵送いずれかにてお送り下さい。定員になり次第締め切らせていただきます。ご了承ください。
参加費用についても **12 月 18 日（金）**までに全額お振り込みいただきます。振込先はお申込み受付後にご案内いたします。

＊ 住所（フリガナ）：〒

＊氏名（パスポートと同じローマ字と漢字フリガナを付けてください）

ローマ字：

漢字（フリガナ）：

＊生年月日（西暦でお願いします）　　年　　月　　日　年齢（　　才）

＊電話：　　＊携帯電話：
＊メールアドレス：
＊パスポート番号（パスポートのない方は出来るだけ早く取得して下さい）

＊ビザ申請の有無（〇をしてください）　申込む　・　自分で取得する
質問等あれば、下記にお願いします。

2027年２月アナンダインド旅行日程表

日程： 2027年2月20日(土)～3月3日 (水) 12日間
費用： ¥396,000
内訳：往復航空券、ホテル滞在費、移動交通費、朝昼食込、材料、布込

2月20日(土)　羽田空港集合 8:30
　　羽田発10:30～デリ-空港着17:30 (AI0357便)
　　デリー空港着後ジャイプール(Jaipur)へバスで移動
　　アーリヤニワスホテル10泊（全朝食付き）
21日(日)　午前中アーノキミュージアムへ行く。午後から自由行動。
22日(月)　バグルー村(Bagru)、木版更紗講習が始まる。（昼食付）
23日(火)　バグルー村２日目、染めの仕上げに行く。（昼食付）
24日(水)　ドーサ(Dausa)へカディの村、カディーセンターに行く。
25日(木)　泥防染で木版プリント。
　　カラデラ村(Kaladera)へ出かける。（昼食付）
26日(金)　同じく、カラデラ村へ仕上げに行く。（昼食付）
27日(土)　ジャイプール市内の化学染めの工房で絞り染め。（昼食付）
28日(日)　サンガネール(Sanganer)の化学染め木版工房や
　　紙の再生工場に行く。
3月　1日(月)　自由行動、観光、ベジタリアン料理を習うなど
　2日(火)　朝ジャイプールをバスで出発、途中ドライブインで昼食
　　デリー空港発19:15(AI0358便)
　3日(水)　羽田空港着05:55　解散

＊ホテルは アーリヤニワスに宿泊します。朝食付きです。
＊染めの村への移動費、講習で使う布や昼食は費用に含まれています。
＊自由行動の日の食事と毎日の夕食代（¥500～¥1000）は各自負担でお願いします。
＊日程内容は現地の都合で変更になることがあります。ご了承ください。
＊布など持参して染めたい方はあらかじめご相談ください。
＊オリジナルの木版を作ってもらいたい方は12月中にデザインを送ってください。
　詳細はお問い合わせください。

アナンダ・インドグループ旅行の特徴とねらい

この旅行に参加希望の方はこのアナンダ・グループ旅行の特徴とねらいを是非よく読んでからご参加下さい。

このグループ旅行のねらい
今の自分の暮らしの中で使えるものを作りに行き、その自作を背負って帰る事です。参加者のほとんど全員が、自分の手でもの作りする人達です。旅行業者には航空券手配を頼むだけで、全てインドとの長い付き合いで築かれたアナンダの個人的なつながりだけでこの旅行は構成されています。インドの村に、今も活きて居る伝統的な職人達に、その物作りを習いながら物を作るという事を通して人の心が通じ合う。アナンダのグループはこの感動がわかる人達なので、多分、観光業者には不思議な人達に見えて・・・近くに世界遺産が有ると言うのに、見向きもしないで、村で手を汚して木版を捺しているなんて・・・と、彼らは思って居るでしょう

植物染めの村について
バグルー村（植物染料、捺染）と、**カラデラ村**（泥防染、浸け染）という歴史ある木版更紗の村の染め工房を、職人ごと、二日間、計四日借り切り、皆さんが家で使う布を好きなだけ作って来る旅です。自分の作品作りの中心になりますので、参加者は自分の家のテーブルクロスやベッドカバー、カーテン、自分の服地、T シャツやショールなど持って行っても染められます。昔からの更紗模様をイメージして、自分が使える物をいっぱい染めるつもりで、作りたい物を考えて行きましょう。（自分の図案の木版が欲しい人は前もってアナンダに連絡下さい。木版屋に頼めます（12 月中にお願いします。）欲張って計画して行きましょう。壁一面にたくさん並んでいる木版の中から好きな版を選んでミロバランで下地染めした布に伝統的な黒、赤、茶の三色が捺せて（実は、色を捺しているのではなく鉄媒染、アルミ媒染、茶はタンニン系の何か）
それを次の日に、アリザリン（茜の色素）の釜で低温（80 度 C 以下）で染めをします。
カラデラ村は、泥で防染しての浸け染め。前日に自分が捺したものも防染で、地染、藍などを加えられます。感じの良い古い村の染め屋です。技術もだけど、現地の職人達の人柄に、こちらも作る人として対等に接することができるのが面白いです。各村で３種類の布をそれぞれ２～３m作ることができます。（旅行費用に含まれている）

サンガネール化学染めの木版更紗布とリサイクルの綿を使った手漉き工場について
数年前から植物染めの布だけではなく化学染めの木版更紗布も輸入しています。その中心的な染めの街がジャイプールの隣にあるサンガネールです。今回も見学だけではなく午前中だけですが化学染めの木版も是非経験してもらいたいので日程に加えました。昼食は街のダバと呼ばれる庶民の食堂に行きます。職人や働く人たちが利用する普通のレストランです。午後からは近くのリサイクルのゴミの集積場にある手漉き紙の工場に行きます。綿の生地などを粉砕し紙を作っている工場です。必見です。

化学染めの工房で絞り染め
ジャイプル市内のイスラム地域にある化学染めの工房に行きます。家族総出で絞り染めをしている工房で絞り染めを自分の好きな色に染めることが出来ます。工房の前にはモ

スクがあり、そのエリアに入るとまた違う生活感を肌で感じることができ、是非、皆さんに直に見てもらいたい場所です。

観光について

観光はやらせ、見せ物で、その背後にある思想は「王様の権威」と「金儲け」なのでインド文化を誤解します。この旅行では村人、職人達の暮らしに接し、しかも手で物作りの交流なので、意外にも言語なしで多くの事が通じ合う、とても楽しい旅です。時に私達の料理人が村の野菜市場で食材を買う時にも、野菜市場の奥までついて行くと、初めて見る野菜やくだもの。人々の間を自由に歩いている牛や山羊やブタの親子などに驚いたり、自由行動の日にはベジタリアン料理を習ったり、ヨガやオイルマッサージなど。
観光は無しとは言え、自分を大事にする国なので、希望があれば遠慮せずお申し出ください。その際、タクシーの手配や友人のガイドを付けることができます。但し別料金になります。

参加する皆さんに伝えたい大事なこと

アナンダは皆さんを一人でも多くインドに連れて行って体感してもらいたいものが実は有るのです。その手作りの暮らしから、西洋とも日本とも根底の違いを感じる何か、これを楽しんでもらいたい。つまり、観光地ではなく、日常の人の暮らしに接すると感じるのですが、それは、多分、日本が高精度の機械生産の国として社会がきっちり出来あがっているのに対して、インドは自分で生きる、手作り思想の国と言う感じ。それもあるし、地平線に沈む太陽や、羊の群れが遊牧民に引かれて遠くを行く風景、大自然の中の淡々とした農民のインド哲学的な生き方などに感動したり　又、町の大通りで牛、やぎ、犬、イノブタの親子や猿の一家などがつながれもせずに、人間と、まるで同等の生きる権利を持っているかのように生きて居る風景。命を排除しないこの人々の生き方の不思議さに感動したり等々するのですが、それらも含め、それ以上に感じ方は皆さんいろいろですが言葉では言えない深いものが見えて来るでしょう。

インドのそれが優れているとか、正しいとか言う気は全く有りません。が、皆が活きて居る日本の空間には、そのちょうど反対、異質を排して整頓する几帳面な日本人という一面が、色濃く有るので、日本の子供達はとても厳しい環境で活きて居る。その中で、当然、不登校がとても増えて、この社会の未来に不安を感じます。これは現場に立たなければ説明してもダメという感じです。インドに見られる古代から続くその流れは、日本にとって、多分、救いとなる大きなヒントが詰まって居ると思います。
日本がまだ石器時代だった頃、インド亜大陸には上下水道が完備した、都市国家が有った。この永い歴史に多くの民族の多様な人々が移り住み、お互いに戦わずにうまくやって行く工夫の歴史、他者をそのまま認めて互いに責めない、排除しない。この 赦しの文化 は、争いを避けて暮らす何千年もの、その知恵の蓄積。ここには地球上から戦争を無くすためのヒントが、多分、潜んでいます。非暴力、徹底抵抗で、人を殺す武器は使わず、あの賢い大英帝国を参ったと言わせて、独立を勝ち取った、あの、マハトマガンディーの思想はインドの誉れどころでなく、多分、人類に進化をもたらす偉大な思想に違いないのです。

（株）アナンダ　西岡秀樹、ゆう子